

11月

カトリック麹町教会

MAGIS



St. Ignatius Church, Tokyo
Celebrating 25 years

マジス = 「より、もっと、さらに」

教会テーマ

さあ出かけよう 心をつないで イエスとともに

～ともに重ねた25年の喜びのうちに 聖霊の導く未来へ～

キリスト者の証し

協力司祭 関根悦雄



ミサの最後に司祭は派遣の祝福をし、続いて「感謝の祭儀を終わります。行きましよう、主の平和のうちに」、または「行きましよう、主の福音を告げ知らせるために」、あるいは「平和のうちに行きましよう、日々の生活の中で主の栄光をあらわすために」と言って、ミサに参加した人々を日常の生活へと送り出します。これは教会が一人ひとりのキリスト者にその人の生き方を通して、キリストが福音として教えられたこと、神の国の価値観を自分のものとして生きることによって、それがこの世の価値観よりも優れたもの

であり、それを生きることによってのみ真の幸福に到達できるのだということを実証するように期待しているというのではないかと思えます。

私たちは縁あってイエスを知るようになり、イエスの教えを学び、その教えがこの世の支配的な見方、考え方よりも優れたものであることを認め、イエスがキリストであることを宣言して洗礼を受けるようになったのだと思います。しかし年月が経過し、私たちの生きる世界にも大きな変化があり、社会そのものの有り様もすっかり変わってきてしまい、私たちはその中で神の子、キリストの弟子としてどのよう

に生きていけばいいのかかわからなくなってしまうのではないのでしょうか。
イエス・キリストの福音は、今ま

でも、今も、これからも、世界のどこにあっても、私たちを真の幸福へと導く教えであることには変わりませぬ。私たちは一人ひとり、イエスの教えを自分の生き方の中で具現し、それが一般社会の価値観よりもずっと素晴らしいものであることを証ししていかなければなりません。しかし、今すぐ100%のキリスト者として福音を生きていくことは大変難しいと思います。

そこです、自分に一番ピンと来るキリストの教えを生きてみることを考えてはいかがでしょうか。「全財産を貧しい人々に施し、それから私に従いなさい」というのは厳しい教えでしょう。世の多くの人が財産を増やすことが人生の目的であるかのように夢中になっている中で、倹しく生活し、余ったものは貧しい人々たちのために使う。「偉くなりたい者は皆に仕える者になり、一番上になりたい者は、すべての人の僕になりなさい」。多くの人が名声を博することを求め、上を目指している中で、本当にしなければならぬことは何かを見極め、それを

淡々と熟し、周りの人を立てて仕える者にならなければならないか。子どもや小さい者を受け入れたり、貧しい人や困難を抱えている人を大事にしているでしょうか。

教会報 MAGIS11月号

† 2024年 教会祭	P2~3
† 司祭叙階おめでとうございます！	P4~5
山内豊神父 クロディエン・バガヤムクエ・チュバカ神父 クリスチャン・ムカディ・イルンガ神父	
† あしたのいえプロジェクト	P5
† (現聖堂 25周年記念連載) ⑦	P6
† Family of St. Ignatius ～ベトナム共同体から～	P7

2024年 教会祭

さあ出かけよう 心をつないで イエスとともに

10月13日(日)12時より、多様な文化や言語を背景にもつ人々が一同に集い、現聖堂献堂25周年を祝う「記念国際ミサ」が野外を中心に行われました。主聖堂、マリア聖堂にもミサはライブ中継され、youtube配信も行われました。15時から主聖堂でシンポジウムが開かれ、各言語圏グループの若者が集いました。

また、ヨセフホールでは献堂時に尽力してくださった神父様やシスターから寄せられたメッセージが花を添え、25年前、鐘楼の下にタイムカプセルとして埋められていた旧聖堂の表札や十字架などが展示されました。



各言語の共同体がひとつに 現聖堂25周年記念国際ミサ

澄み渡った青空とさわやかな秋風の中、トランペットの高らかな音を合図にミサが始まりました。主司式はアンドレア・レンボ補佐司教、中央・千代田宣教協力体の神田教会の立花昌和主任司祭、築地教会のレオ・シユーマカ主任司祭、真境名良和神父、マリア会の青木勲神父、聖パウロ修道会の山内堅治神父のほか、高祖敏明主任司祭をはじめイエズス

会の神父総勢30名が共同司式されました。式次第はさまざまな言語で唱えられるよう工夫され、共同祈願は英語、ベトナム語、ポルトガル語、インドネシア語、ポーランド語、スペイン語、日本語で捧げられました。

レンボ補佐司教は以下のように説教されました。「本日は献堂25周年という大きな節目を迎え、ともに感謝の祈りを捧げることができ、心を心から喜ばしく思います。今日の福音(マルコ10:17-30)で金持ちの青年はイエスに『永遠の命を受け継ぐには何をすればよいでしょうか』とたずねます。この問いは青年が自分の人生に欠けているものを感じていることを示しています。青年は十戒を守ってきたと答えます。『あなたに欠けているものが一つある。行って持っているものを売り払い、貧しい人々に施しなさい』。イエスは物質的な富を超えた、本当の富である神への献身を示しました。私たちもこの呼びかけを聞き、何が本当に

大切なのか再確認する機会にするべきだと思います。

この教会はイエズス会の創立者、聖イグナチオ・デ・ロヨラに由来しており、1549年にキリスト教を日本にもたらした聖フランシスコ・ザビエルは聖イグナチオによって派遣されました。1936年に『麹町聖テレジア教会』として設立され、第2次世界大戦中に全焼したあと再建され、1999年、現聖堂は命と復活の象徴である卵の形を模して建てられました。腕を広げたイエス像は訪れるすべての人を温かく迎え入れ、普遍的な愛を象徴しています。また、この教会は東京の中心に位置し、特別な使命を持っていると思います。多様な国籍、文化、言語を持つ人々が互いに理解し、支え合う場所です。そして、都市における貧困、不公正、孤立などの問題にも取り組んでいます。

イエスの愛とまなざしを感じ、神の呼びかけに応える生活を送りましょう。教会の歴史に触れ、奉仕と愛、そして希望に満ちた信仰を生きることができるよう、ともに祈ってまいります。」



奉納は各言語の共同体の代表が花束、フルーツやメッセージなどを捧げました。聖歌はマリア聖堂前の回廊に設置されたオルガンと前庭の楽隊により演奏され、日本語と英語で歌われました。最後に、イエズス会のアルトゥーロ・ソーサ総長のメッセージが読み上げられ、レンボ補佐司教、高祖神父、実行委員会の塚本京子運営委員長より挨拶があり、大きな拍手とともに記念ミサがしめくくられました。参列者には教会の年表を記したクリアファイル(日本語・英語)が記念品として配布されました。

教会の子ども&若者たちのこれからを考える シンポジウム

シンポジウムは15時から主聖堂にて開催されました。司会は森晃太郎神父。約2時間にわたり各言語圏グループから活動内容の発表と意見交換が行われました。シンポジウムに先立ち高祖敏明神父が挨拶され、次に各グループから順次、活動報告がありました。

日本語圏 教会学校

・土曜学校
「小学生を対象に、信者・未信者の別なくミサや大学

生リーダーによる学年ごとの授業、夏キャンプなどを行います」

・日曜学校

「幼稚園〜小学生を対象に大学生のリーダーが子どもたちに接し、”教会の友達は特別な宝物”と感じてもらえるよう努めています」

・中学生会

「毎日曜日の午前または午後、活動しています。ミサにあずかり、練成会、夏キャンプや春キャンプを通して同年代の絆を深めています」

・高校生会

「毎日曜日の朝、信徒会館で同世代の友人たちと交流。活動はすべて高校生が主体となっており、年々回数が増え、練習会やキャンプでのミサや分かち合い、互いの信仰について語り合う機会が設けられています」

・侍者会

「主日ミサの侍者として、ミサに関する実践的な授業が行われています。長期間侍者を続けることで、豊富な知識を宝物としてほしいです」

英語圏

「ビデオで詳細な活動内容を紹介しました。さまざまな教会行事を通して、よりいっそう、他言語圏と交流するのが夢です」

日本語圏 青年会

「18〜30歳までの成人で、月一回青年会のみミサと分かち合い、祈りの時を共有しています。季節毎に練成会やお花見を行い、毎年成人式ミサの係を分担し、新成人のお祝いを行っています」

国際青年会

「2017年、6人のメンバーによって設立されました。すべての青年たちが神さまから与えられた賜物を引き出し、深めていく活動をまとめるための役割を担っています」

スペイン語圏

「セントロ・ロヨラでスペイン語(親の母国語)を学んでいる子どもたちのグループ。ホセ・ルイス・ペラレスの戦争のない愛に満ちた世界への憧れや願望を表現した歌を子どもたちがギターに合わせて歌い、聖堂内に拍手があふれました」

ベトナム語圏

「2014年約60人で結成。200人を超えとなりました。毎土曜日と日曜日のベトナム語ミサおよび毎月第2日曜日に100人以上の若者たちが集まって定期的な集会を行なっています。毎日曜日の午後、教会で子どもたちのベトナム語クラスも始まりました」

インドネシア語圏

「第2・第4日曜日、マリア聖堂でミサを行なっています。最近では信徒の子ども達が侍者をするなど、積極的にミサをサポートしています。また主にインスタグラムで情報発信しており、国際

青年会とともにコロナ禍からオンライン・クワイアを行なっています」

ワールドユースデー(世界青年大会) 参加者の集い

昨年度参加した代表2人が今の心境を語りました。「『自ら出かけて行く』ことで、また教会に戻って改めて信徒として励む決意が芽生えました」

「参加後に自分ごどのように変化するか、確かめてください。次のソウル大会に多くの人にぜひ参加していただきたいと思います」

最後に森神父は「日頃の活動を通して歩んでいる姿を発表するよい機会になりました」としめくりました。

第2回シンポジウムは11月10日(日)13時30分よりヨセフホールで開催されました。

現聖堂25周年のあゆみをたどる略年表と記念動画はこちらのQRコードからご覧いただけます。



【11月の共同祈願】

死者の月にあたり祈ります。
私たちは親から先祖からいのちを受け継ぎ、
自分がいまここにいることに
感謝の祈りを捧げます。
これからもまわりの人のため、
平和のため、地球のために
行動し続けることができますように。

祭としてこの喜びを分かち合っていたいと思います。

クロディエン・バガヤムクエ・チュバカ神父

1995年1月18日 コンゴ民主共和国ブバ市生まれ
 2012年9月 入会、修練、哲学を学ぶ
 2017年9月 来日、日本語学習
 2019年4月 中間期生として、広島学院で教える
 2021年4月～ 神学課程に入る(上智大学)
 (2023年9月からはフランスのリヨンで神学を続けている)
 2024年2月28日 助祭叙階(日本)
 2024年8月24日 司祭叙階(コンゴ民主共和国)

貴重な恵みをいただいて
 クリスチャン・ムカディ・イルンガ神父

イルンガ神父

ムカディ・イルンガと申します。2007年に来日しました。現在、上智大学大学院で哲学と神学を勉強しています。8月24日に母国コンゴ民主共和国で、司祭叙階の恵みをいただきました。全ての人々、特に弱い立場に置かれている人々に寄り添って、神の慈しみと憐れみを示したいと思います。また、日本におられる「神の民」のためには奉仕したいです。これから

の道はまだ長いので、どうか、私のために祈りください。



クリスチャン・ムカディ・イルンガ神父

1990年1月24日 コンゴ民主共和国リカン市生まれ
 2012年9月 入会、修練、哲学を学ぶ
 2017年9月 来日、日本語学習
 2019年4月 中間期生として、上智学院カトリック・イエズス会センターで働く
 2021年4月～ 神学課程に入る(上智大学)
 2023年4月～ 上智大学大学院文学研究科哲学専攻博士前期課程に在籍中
 2024年2月28日 助祭叙階(日本)
 2024年8月24日 司祭叙階(コンゴ民主共和国)

イエスに一生ついていく

パウルス 山内豊神父

イエズス会の山内豊と申



▲菊地功大司教、佐久間イエズス会管区長と

します。今年の9月、神の恵みと導きによって司祭に叙階されました。これでイエズス会の神父で山内は二人となりました。イエズス会には、二人の山内神父が存在してしまっているので、どうぞ私のことは「面白くない方の山内」もしくは「豊」と呼んでください。聖イグナチオ教会と呼ばれていたのが、「山さん」でも大丈夫です。

生まれも育ちも静岡県浜松です。洗礼を受けたのは22歳の頃です。そのころ人の命を助ける仕事をしたと思うていたのですが、「命とは何か」「死とは何か」という実存的な問題にぶち当たります。

ました。結構絶望的な気持ちになっていました。そんな虚無的な状況から私を救ってくれたのがイエスでした。そんなこんなでクルトゥルハイムで洗礼を受け、聖イグナチオ教会の信徒になりました。それ以外、寄る辺のない私に手を差し伸べてくださったイエスに一生ついていこうと思いい、司祭叙階までたどり着いた次第です。これからよろしくお願いします。

●あしたのいえプロジェクト●

ご寄付のお願い



あしたのいえプロジェクトでは生活困窮にある方や仮放免の状態で就労できない外国人の方などへ一時的な住まい(シェルター)を提供する活動をしています。運営はマリリアテレジア基金および皆さまからのご寄付に頼っており、食糧や日用消耗品等、そして現在は冬物衣料のご寄付もお受けしています(衣料品は11月中のみ)。

ご寄付品はシェルター利用者や相談に来られる方々へお渡ししており、厳しい生活

パウルス 山内豊神父

1984年11月9日 静岡県浜松市生まれ
 2012年3月 入会、修練、哲学を学ぶ
 2017年 中間期として、上智福岡中学高等学校や足立インターナショナルアカデミーなどで教える
 2020年4月 神学課程に入る(上智大学)
 2023年4月～ 上智大学総合人間科学部心理学科に在籍中
 2024年2月28日 助祭叙階
 2024年9月14日 司祭叙階

が続く方々の大きな支えになっていきます。皆さまからの日頃の温かいご支援や励ましに心より感謝申し上げます。なお、ご寄付品については内容をあらかじめご連絡いただけますと幸いです。


【ご寄付方法】

※郵便振替※

001104-252741
 聖イグナチオ教会(通信欄に「援助・福祉献金 あしたのいえプロジェクト」とご記載ください)

※献金袋※

主聖堂後方に「あしたのいえ」専用の献金袋があります。



St. Ignatius Church, Tokyo
14th Anniversary 25 years

柳川朋毅さん(信徒・イエズス会社会司牧センター)

〈現聖堂25周年記念連載〉⑦

人々とともに歩む時に 私が必要にしていること

私たちにとって教会とは

「世界のできごとを自分のこととして―世界の人々とともに歩む」というテーマで話をさせていただくことになりました。私は今、様々な社会活動に関わり、生きづらさを感じている人々とともに歩んでいます。その中で大切にしている言葉があります。それを分かち合いたいと思います。言葉の中に働く聖霊の息吹を味わい、ヒントにさせていただけたら幸いです。

まず、皆さんにとって教会とは何ですか。

聖堂、共同体、組織など思い浮かべるイメージは各々違うと思いますが、60年前の第二バチカン公会議で次のように定義されました。

●柳川朋毅さんプロフィール
2008年に受洗。上智大学・同大学院で神学や聖書を学び、教員などを経て2014年より現職。生きづらさを抱える人々とともに歩み、社会正義と和解の促進のために働いている。

「教会とは、地上を旅する神の民である」。つまり、私たち一人ひとりが教会だというわけです。また、「教会は全人類の救いのための普遍的秘跡」とも述べられています。第二バチカン公会議以前の教会は、信者の救いに関心が向きがちでした。それを捉え直し、教会の扉を開き、「全人類の救いのためにある」としました。

それをさらに一歩進め、教皇フランシスコは私たちにこう呼びかけています。
「すべての人にイエスのいのちを差し出すために出て行きなさい」(使徒的勧告『福音の喜び』49)

扉を開くだけでなく自ら社会へ出ていく。それで傷を負い、汚れてもいい。教皇はそう言うのです。私たちは



そのような教会になっているでしょうか。

キリスト教とは何か

では、私たちにとってキリスト教とは何でしょうか。
エルサルバドルの聖人、オスカル・ロメロ大司教は次のように述べています。

「キリスト教とは、私のことをあれほどまでに愛し、私に愛を求めておられるあの方のことです。キリスト教とはキリストのことです」(1977年11月6日の説教)

私たちが信じる神は、愛の神です。愛する人は「その愛は名詞ではなく、動詞である」と言いました。

キリスト教とは、私をあれほどまでに愛してくださる神との交わり、応答、つながり。それが私たちにとってのキリスト教、信仰という生き方なのだと思います。

私たちにとってイエスとは

私から3つ目の質問です。皆さんにとってイエスはどのような方ですか。親しみを

感じますか。恐れを感じますか。どのような姿、どのような香りですか。イエスと出会うために、どのようなことをしていますか。

教皇フランシスコは、古代の神学者である聖ヨハネ・クリゾストモの言葉を引用して次のように言われています。

「教会堂の中で絹の布をあげてキリストを尊びながら、戸外にあって寒さと裸で震えているキリストをなおざりにしてはなりません」(2017年11月「貧しい人のための世界祈願日」メッセージ)

この言葉は心に突き刺さります。イエスさまが大好きで、主日のミサに欠かさず行く。けれど、聖堂の外で人々にどう接しているか。路上にいる神の似姿である隣人、どのような態度をとっているか。それが問われているのです。

私たちの手はどこに

最後に、私が日頃どのようなことを心に留めているかを紹介させていただきます。

世界には苦しんでいる人、悲しんでいる人が大勢いま

す。その人たちの苦悩や不安、喜びや希望が私たちの心に響かないはずがないと、教皇は様々な表現で繰り返しています。

「イエスのまなざしで見ると、誰かを上から下へ見る時、心に聞いてみてください。自分の手はどこにあるか。後ろに隠しているか。立ち上げられるために差し伸べているか」と(2018年11月4日)

「誰かを上から下へ見る時、心に聞いてみてください。自分の手はどこにあるか。後ろに隠しているか。立ち上げられるために差し伸べているか」と(2019年11月25日 日本の青年との集い) 隣人と接する時、小さくさされている人々を前にした時、自分の目は、手は、心はどのような状態か。そうしたことを意識し、神の招きに従って歩いていければと思っています。



ミッション2030プロジェクトチームでは現聖堂25周年を記念し、「世界のできごとを自分のこととして」をテーマに講話・黙想・霊における会話を行いました。本稿は2024年9月8日(日)の集いにおける柳川朋毅さんのお話を抜粋・編集したものです。



Family of St. Ignatius

きょうどうたい
～ベトナム共同体から～

ざいにち 在日ベトナム人子どもたちの信仰

とうきょうかい かよ じん かぞく ふ
当教会によく通っているベトナム人の家族が増えてい
ます。彼らはこれからも長く日本で生活するので、彼ら
の子どもたちに信仰教育をしなければならないことに気
付きました。そこで昨年5月から在日ベトナム人の子ども
たちを対象にカテキズムのクラスを始めました。シスター
ひとり しんじゃひとり かゆうしん まいつきだいいち だいさん にちようび
1人と信者1人を中心として、毎月第一と第三の日曜日
に初聖体の準備をしています。今年の6月には7人の子
どもたちのために初聖体ミサを行いました。

こ じんずう ふ こんねんど やく
子どもの人数がますます増えてきて、今年度から約30
人の子もたちがクラスに参加するようになりました。初
聖体と堅信を準備するためです。今年の1月から来日
したばかりのグエン・バン・テー神父の力を借りて運営
しています。そして、カテキスタを1年間かけて募集し、
現在約15人がクラスを担当してくれています。

このようなクラスの主な目的は信仰を養うことですが、
母国から離れて生活している彼らが少しでもベトナム語
を身につけることも目指しています。

(グエン・タン・ニャー神父)

●教会黙想会●

日 時：11月23日(土・祝)
10:00～講話・黙想・霊的対話 12:00～ミサ
場 所：主聖堂

テーマ：「聖年 - 希望の巡礼者」
指 導：アンドレア・レンボ補佐司教(東京大司教区)

事前予約不要、YouTube 配信あり。
*詳細は教会ホームページ、ポスター、チラシをご覧ください。

●2024年クリスマスバザー●

「世界の人々とともに歩む-今わたしたちが出来ることを！」

日 時：11月24日(日) 8時半ミサ終了後～15時30分
・献金は聖イグナチオ教会を通じ、困窮地域支援に充てられます。
・インターナショナルも含め16グループが出展予定です。
感染予防、衛生対策を徹底して行います。

*実行委員会では、バザー頒布用の献品は一切受け付けておりません。個人の献品の教会宛郵送や当日の持ち込みはご遠慮ください。

皆さまのご協力をお願いいたします。
クリスマスバザー実行委員会

●献血のお知らせ●

日本赤十字社による献血を実施します。
日 時：12月1日(日)10:00～10:30、12:00～16:30
場 所：ヨセフホール

献血の基準、予約等の詳細については、チラシ・ポスターをご覧ください。

●クリスマスイヴのミサ時間●

12月24日(火) クリスマスイヴミサ
15:00 17:00 19:00 21:00(英語)
17:00 19:30(ベトナム語、上智大学にて)

*昨年同様、日本語ミサは予約制となります。参加方法などの詳細はホームページ、チラシでご確認ください。

●財務報告●

8月25日(日)「世界難民移住移動者の日の献金」
1,267,195円は、日本カトリック難民移住移動者委員会を通じて、幅広く支援に役立てられます。

11月の典礼と行事

最新情報は聖イグナチオ教会ホームページでご確認ください。

1 (金) 諸聖人の祭日	初金曜日	
2 (土) 死者の日		死者の日ミサ 7:00 12:00 七五三祝福式 15:30 主聖堂
3 (日) 年間第31主日		日曜サロン・ミニオリエンテーション 11:00~12:30 ヨセフホール ミサがわかるセミナー 13:00 ヨセフホール 「行きましょう、主の福音を告げ知らせるために」 講師：石井祥裕氏
4 (月)		教会大掃除 9:30~11:15
6 (水)		『社会問題とカトリック教会の考え 2024年度連続セミナー』 シノドスの教会 - 皆が参加し、ともに歩んでみよう - 18:30 ヨセフホール 絆を紡ぎ、共同体を築く (2) - 「聴く教会」「ともに歩む教会」を目指して - 講師：原 敬子氏、渡瀬美登里氏、柳谷晃子氏(シノだるチーム)
10 (日) 年間第32主日		子どもとともにささげるミサ 10:00 教会の子ども & 若者たちのこれからを考えるシンポジウム② 13:30 ヨセフホール
13 (水)		傾聴ルーム 11:15~15:00 ヨセフホール 水曜ティーサロン 12:00 ミサ後
16 (土)		新受洗者と代父母のためのフォローアップ講座 15:00 ヨセフホール
17 (日) 年間第33主日		日曜サロン・ミニオリエンテーション 11:00~12:30 ヨセフホール 教会活動連絡会議 13:00 ヨセフホール ミャンマーデー、貧しい人のための世界祈願日、聖書週間 (17日~24日)
20 (水)		クリプタに安置され11月に命日を迎える方々のためのミサ 12:00 『社会問題とカトリック教会の考え 2024年度連続セミナー』 シノドスの教会 - 皆が参加し、ともに歩んでみよう - 18:30 ヨセフホール 絆を紡ぎ、共同体を築く (3) - 「シノダルの養成」を目指して - 講師：高祖敏明神父
23 (土)		教会黙想会 主聖堂
24 (日) 王であるキリストの祭日		聖フランシスコ・ザビエルの取り次ぎを願う9日間の祈り (~ 12月2日まで) クリスマスバザー 9:30 世界青年の日
27 (水)		傾聴ルーム 11:15~15:00 ヨセフホール 水曜ティーサロン 12:00 ミサ後
28 (木)		ヤングオールド映画会 「最高の花婿」 13:00 ヨセフホール

主任司祭：高祖 敏明

助任司祭：ボニー・ジェームス
グエン・タン・ニャー
サトルニノ・オチョア
柴田 潔

協力司祭：ハビエル・ガラルダ
中村 健三
グエン・バン・テー
関根 悦雄

シスター：マルセラ・ロサス
(セントロ・ロヨラ)
フロール・フロレーセ
ジェスリン・ブエンディア
(ジョン・デ・ブリット イングリッシュセンター)

ミサ参加方法はホームページ、教会事務室で確認してください。

ミサの時間 Mass

【平日 Weekday】主聖堂 Main Chapel
7:00/12:00/18:00【土、日曜日 Saturday & Sunday】主聖堂 Main Chapel
土曜 18:00/19:30 (Viêt Nam)
日曜 7:00/8:30/10:00/18:00
12:00 (English) /13:30 (Español) /
15:00 (Viêt Nam)【月の第1日曜日 1st Sunday】
Our Lady's Chapel
12:30 (Português) /16:00 (Polski)【月の第2第4日曜日 2nd & 4th Sunday】
Our Lady's Chapel 16:30 (Indonesian)

『マジス』へのご意見ご要望などのお便りは事務室までお寄せください。

カトリック麹町教会
(聖イグナチオ教会)〒102 - 0083
千代田区麹町 6 - 5 - 1
TEL 03 - 3263 - 4584
FAX 03 - 3263 - 4585
<http://www.ignatius.gr.jp>Linktree (リンクツリー)
リンクツリー (linktree) とは多
数のリンクをまとめて表示して
いるツールのことです。このQR
コードを読み取ると教会ホーム
ページ、教会ガイド、Twitter、
Facebook、Instagram、
YouTube へアクセスできます。